

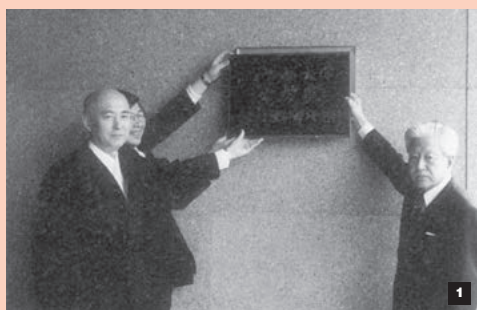
多元数理科学研究科の設置と国立大学改革

今から30年前の1995（平成7）年4月1日、名大で2つ目の独立研究科として、大学院多元数理科学研究科が設置されました。これは、1990年代における国立大学改革の軸になっていた、教養部の廃止（4年一貫教育の開始）と大学院重点化・大講座制化を歴史的背景としていました。

多元数理科学研究科設置と連動していたのが、1995年度から96年度にかけて実施された名大理学部の大学院重点化です。理学部では、大講座制に基づく「領域間融合型教育・研究システム」を重点化の理念としました。研究分野を多元数理科学・素粒子宇宙物理学・物質理学・生命理学・地球惑星理学の5分野に再編し、大学院はこれらの分野名を冠した5専攻（それまでは9専攻）で構成するとともに、学部学科もこれら各専攻に1学科ずつ（物質理学専攻は2学科）が対応する6学科（それまでは8学科）に統合再編することになりました。

当時の理学部数学科は、1992年度に1講座を増設して11講座となり、さらに93年に廃止された教養部から数学の教官が移動したことにより、50人もの教官を擁する大規模学科になっていました。そこで、数学科11講座と工学部工業数学2講座等を、基幹数理・自然数理・社会数理・数理解析・高次元相の5講座に編成し、理学研究科から独立させて設置したのが多元数理科学研究科でした。教官の多くは、理学部数理学科（1995年度に数学科を改組）を兼務担当しました。

名称の「多元」は、当時の資料によると、研究の対象・方法・方向、教育の対象・方向、教官組織の多元性を示すものとされています。教官組織の多元性とは、多元的な研究と教育を円滑に行うため、大学教官のみによって構成されてきた従来の教官組織に、外部から優秀な人材をマネージングプロフェッサーとして受け入れることを指していました。



- 1 多元数理科学研究科の銘板上掲式（1995年4月26日、理学部A館玄関前）。現在は多元数理科学研究科棟の玄関に掲げられているこの銘板の文字は、当時の加藤延夫総長（写真右端）の揮毫による。
- 2 授業の様子（1996年の多元数理科学研究科紹介冊子より）。
- 3 1997年に竣工した当時の多元数理科学研究科棟。この建物の竣工は、理系地区のキャンパス再開発のスタートを告げるものでもあった。
- 4 第1回修了生（金銅誠之ゼミ）の記念写真（1997年名大生協卒業アルバムより）。

名古屋大学の卒業生、
現役・退職後の教職員の方々へ

**名大史をつむぐ資料を
大学文書資料室に！**



■ 在学時の配布物

（学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…）

■ 教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料

（各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事、写真…）

■ 校費による印刷物・刊行物

（冊子、パンフレット、ポスター…）

■ ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集…

など

※その他、ご処分予定の資料についても、まずは下記へご一報ください。

東海国立大学機構大学文書資料室

TEL 052-789-2046
Mail nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp